

教科	科 目	単位数	学年・クラス
数学	数学 I	3	1 年 1 組・2 組

1 使用教材

使用教科書	改訂版 新編 数学 I
出版社	数研出版
副教材等	4 STEP 数学 I +A 教科書傍用
出版社	数研出版

2 学習の目標

1 数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解する。
2 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
3 事象を数学的に考察し処理する能力を培い、数学のよさを認識できるとともに、それらを活用できるようになる。

3 評価の観点・方法

評価の観点	内 容
① 知識・技能	数と式、2 次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	数と式、2 次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数と式、2 次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとしている。

評価方法	観点別重要度			主な評価項目
	①	②	③	
定期考査	A	A	C	総合的な出来
小テスト	A	B	C	既習事項を身に付けることができているか
レポート	C	C	A	提出内容
授業	C	B	A	授業態度や発表、協調性があるか

※表中の A・B・C は評価の重要性を高い順に表している。

4 学習計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい
1 学期	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式 第2章 集合と命題	式を多面的に見たり処理したりできるようになる。 数を実数まで拡張する意義を理解する。 1次不等式を事象の考察に活用できるようになる。 集合に関する基本的な概念を理解する。
2 学期	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比への応用	2次関数とそのグラフについて理解する。 2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有効性を認識する。 2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法に習熟する。 三角比(正弦・余弦・正接)の概念を導入し、長さに関する身近な問題の解決に活用できるようになる。 三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようになる。
3 学期	第5章 データの分析 1年間の復習および数学Ⅱの予習	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようになる。